

総務省では職員のライフステージの変化に応じた多様な働き方の実現に積極的に取り組んでおり、各職員が自分にあった働き方で能力を発揮できるような環境が整っています。

## 多様な働き方の実現

### テレワーク

総務省はテレワークの推進官庁でもあり、全職員がテレワークできる環境を整えるなど、職員の積極的なテレワーク利用も推進しています。今後も、日常の働き方として更に定着させるためテレワーク勤務の質の向上などの取組を進めていきます。

### 早出遅出勤務

1日の勤務時間の長さを変えずに、業務上の必要や育児又は介護、修学等の事情に応じ、始業・終業時刻を繰り上げたり繰り下げたりした勤務時間帯を割り振ることができる制度があります。(例:7:30~16:15、10:00~18:45など)

### フレックスタイム制

仕事や家庭の状況に応じて、日々の勤務時間を柔軟に設定できる制度があります。(原則4週間の単位期間内で、全体の勤務時間数を変えることなく、1日の勤務時間数を7時間45分以外(最短勤務時間数あり)とすることが可能。)



コアタイム:全員が勤務する必要があります。  
フレキシブルタイム:範囲内で、勤務時間を早める(遅らせる)ことや、1日の勤務時間を短く(長く)して、その分他の日の勤務時間を長く(短く)すること等ができます。



## 早く帰りたい



大臣秘書官室  
白倉 拓志 USUKURA TAKUSHI

- 平成24年 4月 総務省採用  
総合通信基盤局電気通信事業部高度通信網振興課
- 平成26年 8月 総合通信基盤局総務課
- 平成28年 7月 情報通信国際戦略局情報通信政策課
- 平成29年 7月 情報流通行政局情報通信政策課
- 平成30年 4月 総合通信基盤局電波部移動通信課第一業務係長
- 令和 2年10月 育児休業
- 令和 2年12月 総合通信基盤局電波部移動通信課第一業務係長
- 令和 3年 4月 大臣官房秘書課主査
- 令和 4年11月 育児休業
- 令和 5年 1月 現職

『早く帰りたい』これは、仕事をする上で、私が思うことです。なぜか。それは、2児の父であり、育児・家事をしたいからです。

私が現在勤める部署では、早朝勤務と深夜勤務も必要となる時期があるため、早く帰りたい私は、早朝勤務を担当し、子どものお風呂タイムまでには必ず帰るようにしています。「〇時までには絶対帰る」という意識を持つと、効率的な業務遂行を自然と心がけますし、深夜勤務を担当する同僚への引継ぎ等を円滑にするために、コミュニケーションを密に取るようになりました。『早く帰りたい』という字面は、一見ネガティブな印象を与えるかもしれませんが、仕事の仕方にプラスとなる面もあると実感しています。

また、私は、長男・次男の誕生に伴い、それぞれ3カ月程度の育児休業等も取得しました。休業期間中は、職場に迷惑をかけてしまうなどの不安もありましたが、上司へ育休等の取得について相談すると、取得に向けて、すぐに体制整備に取りかかっていただけでした。

長い役人生活ですので、これから入省されてくる皆さんも、ライフステージの変化に伴い、何を優先したいかは変わるはずですが、「ワーク」より「ライフ」を優先することは勇気がいりますし、バランスをとることは大変ですが、総務省には、男性であってもこの実現のために応援してくれる方がいますので、変化が訪れた際には、一歩踏み出してみてはいかがでしょうか。



## 仕事も子育ても充実したものに



統計局統計情報利用推進課統計編集第一係  
兼子 光梨 KANEKO HIKARI

- 平成26年 4月 総務省採用  
統計局統計調査部経済統計課審査発表第一係
- 平成28年 4月 統計局統計調査部消費統計課物価統計室企画指導第一係
- 平成31年 4月 統計局統計調査部消費統計課物価統計室企画指導係
- 令和 元年 5月 統計局統計調査部国勢統計課審査発表係
- 令和 2年 4月 統計局総務課総務係
- 令和 2年 8月 育児休業
- 令和 4年 4月 現職

私には2歳になる娘がおり、育休制度は2年間取得しました。育休中は娘の成長を間近で感じながら、たっぷり一緒の時間を過ごすことができました。その育休を終え復職するとき、私が一番不安だったのは、「働きながら子育てって、本当にできるの?」ということでした。働く上ではやりがいやキャリアも大切にしていたのですが、復職時の私にとっては、働きながらも充実した子育てができるかどうか重要な点でした。

復職した現在、私は昼休みを30分短縮し2時間の育児時間を取得して働いています。保育園のお迎え後は、夕食やお風呂とそれなりに忙しいですが、寝る前には夫か私のどちらかが、娘と絵本を読む時間を取るようにし、親子のふれあいも大切にしています。また、週の半分はテレワークを活用しています。通勤時間がない分、業務の時間を長く設定し、まとめて仕事をこなすことで、効率良く働くことができています。

総務省では、子育てと仕事の両立を支援するための制度が整っており、子供との時間を大切にしながら、仕事にも意欲的に取り組める環境を自分自身で作っていくことができます。みなさんも自分に合う働き方を総務省で実現させてみませんか?



## 仕事と家庭の両立支援制度

